



# 新春対談 市長×市民記者

市民記者の永倉さん、佐藤さんが、岡部市長に市政運営について聞きました。



(永倉・佐藤) 明けましておめでとうございます。本日はいろいろなお話をお聞きしたいと思えますので、よろしくお願ひします。

(市長) よろしくお願ひします。

(永倉) さて市長、昨年を振り返ると、どのような年でしたか。

(市長) 昨年は、市民主体の新たなグルメ「佐野黒から揚げ」が誕生するとともに、「佐野市国際クリケット場」が完成し、「クリケットタウン佐野」として動き出すなど、地方創生の先導的取り組みが形になった年でした。

また、市民の健康保持のため、佐野市民病院の安定経営・サービス向上に向けた民営化を進めたほか、本市の顔となる市役所南側道路(市道1級1号線)の整備が進捗するなど、多くの事業を計画的に進めることができました年でした。

## 健康長寿の都市を目指した取り組みについて

(佐藤) 市民の健康という話が出ましたが、健康長寿の都市を目指し、どのようなことに取り組まれていますか。

(市長) 第2次佐野市総合計画において、健やかで元気に暮らせるまちづくりを基本目標とし、心と体の健康づくりを推進しています。また「すべての市民の健康寿命の延伸」を目指したさの健康21プランでは、健康教室や健康大学、健康相談などの機会を通じて、疾病予防、生活の改善、運動の促進、こころの健康づくりなど健康づくりに関する意識啓発を行っています。

また本市の各種健診(検診)の受診率は低率であるため、特定健康診査の検査項目の追加や自己負担金の軽減、「健診スタートブック」の内容・健診会場を検討し、受診しやすい環境を整えていきたいと考えています。

また、地域で健康づくりを実践しているボランティアグループ「健康サポートさの」に協力をいただき、地域での健康の輪を広げていきたいと思えます。

## 日本女性会議について

(永倉) 今年の10月には、日本女性会議が開催されますね。日本中からいらっしゃる皆さんに、「佐野市らしいおもてなし」がで



市民記者  
永倉文子さん  
(相生町)

きればと思いますが、大会長である市長はどのようにお考えですか。

(市長) 過去の開催都市では、会場付近でボランティアがカードをもつて笑顔で道案内したり、トイレにメッセージ付きの花が飾られたりするなど、おもてなしがされたと聞いています。

さの大会においても、全国から来られる方が佐野市に来てよかったと思えるようなおもてなしについて、運営委員会のおもてなし部会で具体的な検討をしております。また、本市では平成29年度に「全国山城サミット」を開催しました。その経験も踏まえ、多くの方が会議に参加してよかった、心あたたまるおもてなしがあったと思えるように今後も検討していきたいと考えております。



## 女性に特化した 創業支援について

(佐藤) 女性会議によって、女性のさらなる活躍が目指されますね。女性の収入増加を目指し、行っている創業支援などがあれば教えてください。

(市長) 創業支援については、佐野商工会議所、佐野市あそ商工会、日本政策金融公庫佐野支店と連携し、創業前から創業後まで段階的にさまざまなサポートを行っています。

また、創業支援の一環として、まちなか活性化ビル「佐野未来館」3階フロアを新規事業者が本格的に開業する前のチャレンジショップとして利用できるように無料で貸し出しています。女性に特化したものではありませんが、本格的な開業を前に、いろいろ試すことができるのは大きなメリットになると、多く



市民記者  
佐藤久夫さん  
(栃本町)

の女性にご利用いただいていますので、今後ますます女性の活躍が期待されると思います。

## 全世代への生涯学習について

(佐藤) 「人生100年時代」を迎え、女性のみならず、今後あらゆる世代がより活躍するために、生涯学習をどのように充実させていきますか。

(市長) 現在、「第2次佐野市生涯学習推進基本構想 前期基本計画」の策定を進めており、今後はそれに基づいて豊かで躍動する佐野市を目指し、地域を支える多才な人材の育成を進めていきます。

また、社会の変化、市民の皆さんからの多様なニーズに応え、子どもから高齢者まで世代を超えた生涯学習を一層充実させていきたいと考えています。

## 防災対策としての組織づくり、 物品備蓄について

(永倉) 近年、日本各地で地震や噴火、台風などの被害が起きていますが、佐野市ではどのような対策をされていますか。

(市長) 組織作りとしては、全町会に防災組織の設立をお願いし

ており、その結果、多くの町会が防災組織を設立し、避難訓練、心肺蘇生法やAED訓練、消火器を使用した初期消火訓練などを行っています。

また、地域防災の担い手となる防災士資格取得者が、地域の自主防災活動の活性化を支援し、安全で安心なまちづくりに寄与することを目的として、昨年7月に佐野市防災士連絡会を設立し活動を始めたところです。

さらに、10月には、災害対策基本法に基づいて、災害発生時の応急対策や復旧など災害に係わる事務・業務に関して総合的に定めた佐野市地域防災計画を始め、水防計画、国民保護計画の見直しを行い、これにより、今まで以上に地域防災力の向上が図られるものと考えています。

物品備蓄については、市役所の地下を含めた市内22カ所に防災倉庫を設置し、分散備蓄を行っています。本市で大規模な災害が発生した場合でも、近隣の地域に設置してある防災倉庫より食料や飲料水、毛布などの生活必需品から救助工具など、避難

所などへ迅速に搬送できる体制を整えております。

また、ハラルやアレルギー対応の備蓄も行っており、あらゆる対応を想定した備蓄を進めております。

## 未来に向けた取組について

(永倉) 5月に新しい元号を迎え、市のさらなる活躍に向け、どのようなことに取り組めますか。

(市長) 平成から新しい時代を迎えますが、交流人口の増加、出生率の向上、安全安心な地域づくりなど、引き続き、地方創生を意識した取組を促進してまいりたいと思います。

また、市が持続的に発展していくため、市有施設の適正配置や行政本体のスリム化を進め、コンパクトシティ構想による集約型のまちづくりを行い、新たな元号とともに「市民と地域が輝く交流拠点都市」の実現に向け、取り組んでまいりたいと思います。

(永倉・佐藤) 今日はいろいろな話題をお話いただき、ありがとうございました。

(市長) ありがとうございます。

